

令和3年度 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校 学校関係者評価

4段階評価 「4…期待以上である(できている)」 「3…ほぼ期待どおりである(ほぼできている)」 「2…やや期待を下回る(あまりできていない)」 「1…改善を要する(できていない)」

学校 目標	幼児・児童・生徒の個性を重んじ、一人一人の障がいの状態や発達段階、特性等に応じた指導及び支援を行い、その可能性を最大限に伸ばすことで、自立し社会参加できる人間の育成を目指す。					
経営 ビジョン	「聴覚に障がいのある子どもたちに教育を」の本校創立の理念を踏まえ、言語力向上を基盤とし、本校の教育目標を具現化するため、聴覚障がい教育の使命を自覚し、変化する社会に主体的に対応できる「生きる力」を育て、創造性豊かな活力のある教育を推進する。					
評価 項目	評価 指標	自己 評価	保護者 評価	学校の自己 評価（成果・課題等）	学校関係者 評価	学校関係者からの感想並びに提言等
1 学力の 向上と 多様な 進路 実現	① 児童生徒は学校に行くのを楽しみにしていると思いますか。	3.3	3.4	○ 本年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら体育大会を除くほとんどの行事も実施できた。体育大会は外部の方々には御遠慮いただき子供たちだけで実施した。コロナ禍の中でも、子供たちは落ち着いて学校生活を過ごしている様子が伺える。引き続き、子供たちや保護者が学校生活を楽しみにする魅力ある学校づくりに取り組んでいきたい。	3.5	<p>I 新型コロナウイルス感染症対策について</p> <p>○ 学校が本来集中すべきことに集中できないコロナ禍のこの現状は、幼児児童生徒・教師・保護者の繋がりを裂くものであり、その中で成果を問うのは非常に酷である。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症対策のため様々な制限の中での学校運営は大変な苦労があることと推測する。</p> <p>II 教育活動について</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症対策のため行事等を参観できる機会が昨年度同様ほとんどなく残念だったが、参観できた際は日々創意工夫されているのを感じることができた。</p> <p>○ 子供たちの生き生きとした笑顔を随所に見ることができた。</p> <p>○ 先生方が指導内容に合わせ、いろいろな教材を作成・活用していることがとても伝わってきた。</p>
	② それぞれの授業において、学力向上を意識した指導が実施できていますか。	3	3.3	○ 本年度は臨時休業もなく、授業も予定通りに実施でき、参観日においても保護者に授業参観してもらう機会を設定することができた。新学習指導要領に沿った学習内容・評価にも取り組んでいる。引き続き三密防止やソーシャルディスタンスなど安全確保に努めながら、学習活動を展開していきたい。	3.5	
	③ 子供たちの各課題に応じた分かりやすい授業が実施できていますか。	3.1	3.1	○ 日々の授業に関し概ねよい評価であることは喜ばしい。今後も、聴覚障がい教育の専門性に関する研修を重ねつつ、日々子供たちにとって分かりやすい授業となるよう工夫していきたい。	3.5	
	④ 学習効果を高めるための教材教具の工夫や改善が実施できていますか。	3.1	3.3	○ 概ねよい評価結果となったが、職員のICT活用には依然差が見られ、その課題解決についても模索中でもある。これからの教育においてICT活用は必要不可欠なものであることから、更にICT活用を含む教材教具の工夫や改善に取り組んでいきたい。	3.5	
	⑤ 学校と家庭が連携した効果的な指導が実施できていますか。	3	3.3	○ 今年度は参観日の設定もでき、家庭と直接話し合う機会を昨年と比べ確保することができた。学級通信や連絡帳などの日々の情報伝達手段を更に活用しつつ、学校と家庭が協力・連携しながら共同歩調で子供たちを育てていくようにしていきたい。	3.5	
	⑥ 個々の実態に応じた進路指導が実施できていますか。	3.1	3.3	○ 子供たちの状況に応じキャリア学習を適宜見直すなど、PDCAサイクルで取り組んだ。また日々のキャリア学習から、子供たちには協調性や忍耐力・持続力が目に見えて身に付きつつある。常に卒業後必要となる力を意識した指導に引き続き取り組んでいきたい。	3.5	
	⑦ 職業理解のための情報提供、進路相談等が実施できていますか。	3	3.1	○ 進路だよりを定期的に配付するなど、積極的に発信した。保護者からは概ねよい評価をいただいたが、進路決定の過程や卒業後の状況を知りたいという意見も聞かれることから、関連する情報を提供しつつ進路指導の充実が更に図れるようにしていきたい。	3.5	

2 人権意識の向上	① 人権の意義・重要性が理解できるようになる指導ができていますか。	3.1	3.3	○ めざす学校像の一つに「異なる価値観を認める心、互いを尊重し認め合う心の育成」を掲げ日々取り組んできたが、概ねよい評価結果となった。校内においても、幼稚部から高等部まで子供たち同士みんなで仲良く学校生活を送ろうと、互いを気遣い支え合うほほえましい姿が随所に見られる。一方、新型コロナウイルス感染症対策により、ここ数年障がいのない子供たちとの直接交流が減少もしくは実施できていない状況にある。今後は新型コロナウイルス感染状況次第ではあるが、可能な限り交流学習を実施しお互いを理解しあい、社会で共に生きる一員としての意識向上に向け取り組んでいきたい。	3.3	Ⅲ 努力事項 ○ 学力向上には日本語獲得が大切であるため、教科指導の中でしっかり日本語獲得におけるねらいが伝わるような授業を展開していく必要がある。 ○ コロナ禍が続くことも予想されることから、今以上に積極的なICT機器の活用なども必要である。 ○ 今後指導方法なども研修していくと、もっと素晴らしいものになるのではないかと。 ○ 個人の特性にあったコミュニケーション手段を選択できる研究を進めていく必要があるのではないかと。 ○ 専門性の高い機関(医療・大学等)との連携や校種の垣根を越えた連携等もより必要である。 ○ 子供たちの進路等の選択の幅を増やしていけたらよい。 ○ いろいろな情報媒体を使いつつ今後も積極的に啓発していくことを期待する。
	② 自他共に人の大切さを認めることができるようになる指導ができていますか。	3.2	3.3		3.3	
	③ 自他への大切さが、具体的な態度や行動に現れるような指導ができていますか。	3.1	3.2		3.3	
	④ 自他の人権を守るための行動につながる指導が実施できていますか。	3.1	3.4		3.3	
3 性の専門	① 障がいの実態に応じた指導が日々実践できていますか。	3.2	3.4	○ 保護者からの聞き取りと併せ、子供たち一人一人の障がいの実態把握を十分に行いながら、日々の指導に努めてきた。今後も家庭と緊密に連携しながら、子供たちの指導に丁寧にあたっていく。	3.3	
4 聴覚障がい児の推進	① 教育相談体制の充実を図る取組が実施できていますか。	3	3.3	○ 今年度の地域支援については、新型コロナウイルス関連の影響も少なく概ね実施できた。校内支援についても職員間で連携しつつある程度取り組めた。校内において組織的対応が必要な部分でもあるので、今後も校内支援体制の整備に取り組んでいきたい。	3.3	
	② 地域に、学校の取組や必要な情報を伝えることができていますか。	2.6	3	○、通年を通しホームページに加え今年度からは県教育委員会のツイッターを活用し積極的な情報発信を行い、昨年以上に頻繁に情報発信することができた。一方様々な媒体で幅広く情報発信の必要性を感じていることから、ソーシャルメディアの発達に乗り遅れないよう日々取り組んでいきたい。	3	
5 その他	② 災害への対応や緊急時の対応が整備されていますか。	2.8	3.3	○ 今年度も災害の発生もなく、緊急的対応をとる場面がなかった。しかし、災害はいつ起こるかわからないため、全職員で危機管理マニュアルを再確認し、災害発生時には適切かつ迅速に対処できるようにしておきたい。避難訓練も危険回避等の視点をとり入れた。	3.3	